

F I N A N C I A L R E P O R T



85th

中間報告書

2015.4.1 - 2015.9.30

〔特集〕

- ① TOKYO MOTOR SHOW
2015 に出展
- ② SUBARU
NEXT STORY スタート！

株主のみなさまには平素よりご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第85期(2015年度)の中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

2015年度上期につきましては、全世界の自動車連結販売台数が47.2万台と、上期として過去最高を記録することができました。この好調な販売などにより、上期の連結業績は、売上高1兆6,015億円、営業利益2,851億円、経常利益2,850億円、親会社株主に帰属する当期純利益1,932億円と、いずれも全ての半期を通じて過去最高となりました。

また、2015年度通期計画につきましても、連結販売台数95.3万台、売上高3兆2,100億円、営業利益5,500億円、経常利益5,470億円、親会社株主に帰属する当期純利益3,720億円と、いずれも4期連続での過去最高となる見通しです。

このような状況の中、株主のみなさまへの中間配当につきましては、2015年度上期の業績、通期業績予想を鑑みまして、1株当たりの配当を72円といたしました。また、期末の配当予想につきましても、中間配当と同じく72円とし、1株当たりの年間配当金は、昨年度実績の68円から76円増配の144円となる予定です。

特に、当社の最大市場である北米での自動車販売が好調を維持しており、2014年5月に発表した中期経営ビジョン「際立つ2020」において、2020年度の目標としておりました北米での連結販売台数60万台を、本年度に前倒しで達成できる見通しとなりました。また、日本は登録車の新車効果が薄れたことから上期の販売実績は前年をやや下回ったものの、販売環境の厳しい中国とロシアを除くその他の海外市場につきましても、概ね好調を維持しており、各市場でご購入をいただきましたお客様に、スバル車をお待ちいただいている状況が続いております。

そのため、今後の生産体制につきましては、米国の生産拠点であるスバル オブ インディアナ オートモーティブ イ

ンク(SIA)の生産能力を当初計画から4年前倒しし、2016年末に現在の20万台から約40万台へ増強することにいたしました。そのうちの一部を更に前倒しし、2016年夏に実施することといたしました。これにより、一人でも多くのお客様に、できる限り早くスバル車をお届けできるよう努めてまいります。

商品につきましては、米国で本格導入いたしました運転支援システム「アイサイト」が、第三者機関からその安全性でトップクラスの評価を獲得し、またお客様からも大変ご好評をいただいております。今後は、その性能を更に進化させ、2020年には車線変更を含めた高速道路上下での自動運転を実現してまいります。

また、当社の強みである衝突安全性能を更に高めた新設計の次世代プラットフォーム(Subaru Global Platform)の開発を進めており、2016年末に発売を予定するインプレッサのフルモデルチェンジより採用を開始し、それ以降に市場へ投入する新しいモデルに順次展開してまいります。これら商品力の強化により、安全面では「総合安全No.1ブランド」を目指すと共に、スバル車のアイデンティティである「安心と愉しさ」を追求した車づくりを進めてまいります。

更に、ご購入をいただきましたすべてのお客様が安心してスバル車をお乗りいただけるようサービス体制の強化を進め、またスバル車のあるお客様の人生がより豊かになることを実現するための活動も進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月



代表取締役社長

吉永 尚之

営業の概況（連結）

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、自動車売上台数の増加や為替変動に伴う売上高の増加などにより、1兆6,015億円と前年同期比2,912億円（22.2%）の増収となりました。

利益面につきましては、売上高の増加に伴い、営業利益が2,851億円と前年同期比994億円（53.6%）の増益となり、経常利益につきましても、2,850億円と前年同期比1,091億円（62.0%）の増益となりました。また、

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、1,932億円と前年同期比802億円（70.9%）の増益となりました。

● 通期見通し

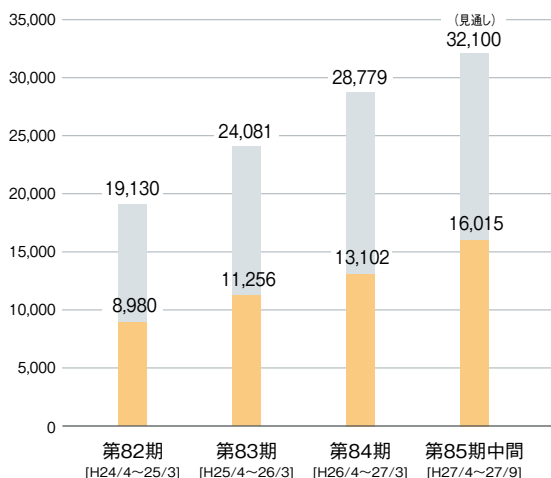
通期の連結業績につきましては、売上高3兆2,100億円、営業利益5,500億円、経常利益5,470億円、親会社株主に帰属する当期純利益3,720億円を予想しております。

連結の業績および推移

● 売上高の推移

（単位：億円）

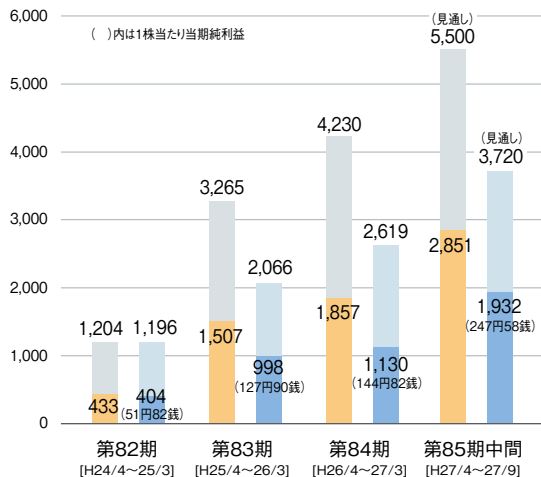
■ 上期 ■ 下期



● 利益の推移

（単位：億円）

営業利益 ■ 上期 ■ 下期 当期純利益 ■ 上期 ■ 下期



自動車事業部門

重点市場である北米の販売好調などにより増収増益

国内の登録車につきましては、「レガシィ」、「WRX」及び「クロスオーバー7」の販売が好調に推移したものの、発売から1年が経過した「レヴォーグ」、「フォレスター」の販売が減少したことなどにより、売上台数は5.0万台と前年同期比0.7万台(11.8%)の減少となりました。一方、軽自動車につきましては、「ステラ」の販売が好調に推移したことなどにより、1.7万台と前年同期比0.2万台(10.8%)の増加となりました。これらの結果、国内における売上台数の合計は6.7万台と前年同期比0.5万台(7.0%)の減少となりました。

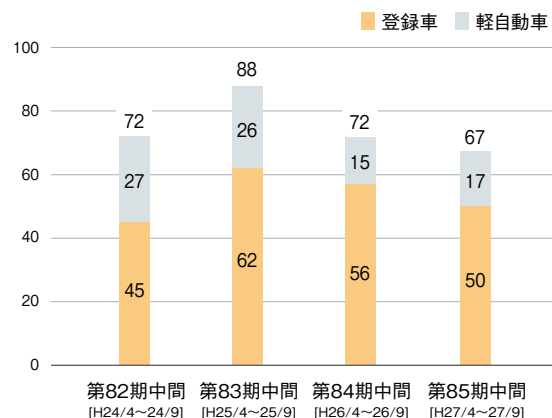
海外につきましては、当社の重点市場である北米を中心に「レガシィ」、「アウトバック」、「インプレッサ」及び「WRX」の販売が好調に推移したことにより、売上台数の合計は40.6万台と前年同期比4.6万台(12.7%)の増加となりました。

地域別の売上台数は、北米で31.7万台と前年同期比4.5万台(16.4%)の増加、ロシアを含む欧州で2.3万台と前年同期比0.1万台(4.7%)の減少、豪州で2.3万台と前年同期比0.4万台(19.2%)の増加、中国で2.0万台と前年同期比0.8万台(28.6%)の減少、その他地域で2.2万台と前年同期比0.7万台(41.1%)の増加となりました。

以上の結果、国内と海外の売上台数の合計は47.2万台と前年同期比4.1万台(9.4%)の増加となり、為替変動の影響も加わり、全体の売上高は、1兆5,057億円と前年同期比2,777億円(22.6%)の増収となりました。また、セグメント利益につきましても、2,732億円と前年同期比947億円(53.0%)の増益となりました。

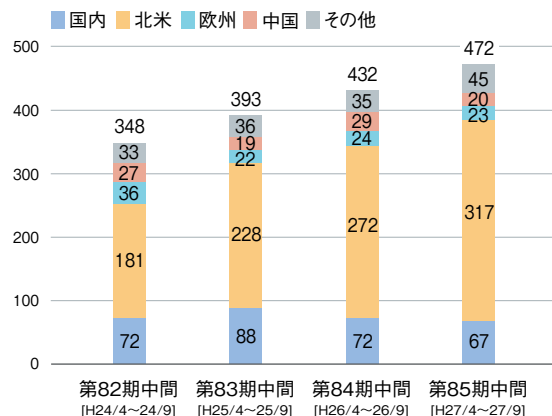
● 売上台数の推移(国内)

(単位:千台)



● 売上台数の推移(世界)

(単位:千台)



※台数表示は千台未満四捨五入

航空宇宙事業部門

ボーイング787の売上増加などが貢献し増収増益

防衛省向け製品では、哨戒機「P-1」の生産が増加したことにより、売上高は前年同期を上回りました。また、民間向け製品におきましても、「ボーイング787」、「ボーイング777」の売上増加及び為替変動の影響により、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、全体の売上高は735億円と前年同期比96億円(15.1%)の増収となりました。セグメント利益につきましても、96億円と前年同期比37億円(63.2%)の増益となりました。

産業機器事業部門

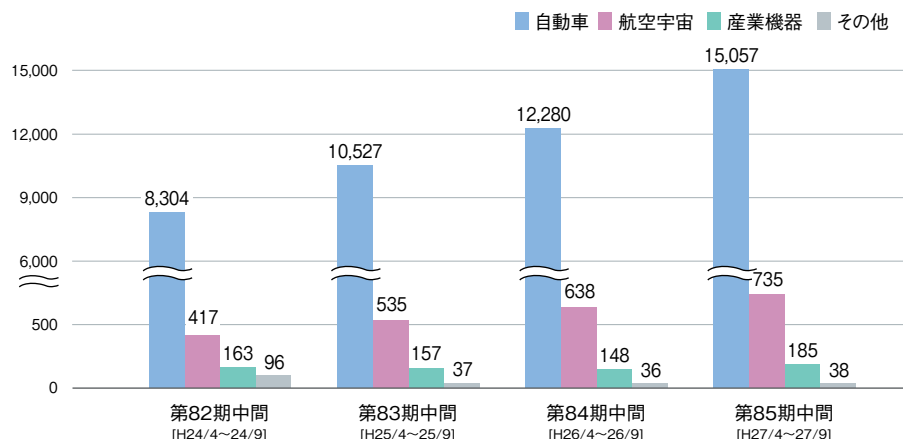
北米向け販売の増加などにより増収増益

ロシア向けの大幅減などにより汎用エンジンの販売が減少したものの、北米向けレジャービークル用エンジンの販売が増加したことや為替変動の影響により、売上高

は185億円と前年同期比37億円(25.3%)の増収となりました。セグメント利益につきましても、6億円と前年同期比5億円(370.5%)の増益となりました。

● 部門別売上高の推移

(単位:億円)



連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当第2四半期末 平成27年9月30日現在	前期末 平成27年3月31日現在
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	324,700	228,821
受取手形及び売掛金	145,385	164,540
リース投資資産	22,879	24,098
有価証券	530,522	444,737
商品及び製品	168,277	203,347
仕掛品	55,232	52,734
原材料及び貯蔵品	35,724	39,569
繰延税金資産	76,909	78,789
短期貸付金	145,463	157,070
その他	86,531	80,796
貸倒引当金	△ 1,103	△ 1,233
流動資産合計	1,590,519	1,473,268
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	130,325	128,225
機械装置及び運搬具(純額)	123,038	130,433
土地	176,944	177,075
賃貸用車両及び器具(純額)	18,066	8,765
建設仮勘定	56,327	28,611
その他(純額)	37,492	41,588
有形固定資産合計	542,192	514,697
無形固定資産		
その他	17,592	16,850
無形固定資産合計	17,592	16,850
投資その他の資産		
投資有価証券	117,242	111,558
退職給付に係る資産	1,845	3,659
繰延税金資産	12,653	13,113
その他	112,756	99,648
貸倒引当金	△ 33,067	△ 33,079
投資その他の資産合計	211,429	194,899
固定資産合計	771,213	726,446
1 資産合計	2,361,732	2,199,714

単位:百万円

科目	当第2四半期末 平成27年9月30日現在	前期末 平成27年3月31日現在
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	311,873	317,801
電子記録債務	79,376	74,420
短期借入金	47,732	41,443
1年内返済予定の長期借入金	36,978	44,329
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	70,133	54,987
未払費用	113,307	126,007
賞与引当金	22,098	21,668
製品保証引当金	50,921	49,708
工事損失引当金	77	0
その他	140,391	142,693
流動負債合計	882,886	873,056
固定負債		
社債	—	10,000
長期借入金	106,693	115,420
繰延税金負債	12,005	13,996
役員退職慰労引当金	402	409
退職給付に係る負債	17,922	17,963
その他	149,296	138,151
固定負債合計	286,318	295,939
2 負債合計	1,169,204	1,168,995
純資産の部		
株主資本		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,071	160,071
利益剰余金	861,783	697,414
自己株式	△ 1,392	△ 1,382
株主資本合計	1,174,257	1,009,898
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,872	17,986
為替換算調整勘定	9,492	10,025
退職給付に係る調整累計額	△ 10,415	△ 11,616
在外子会社のその他退職後給付調整額	△ 3,866	△ 3,876
その他の包括利益累計額合計	11,083	12,519
非支配株主持分	7,188	8,302
3 純資産合計	1,192,528	1,030,719
負債純資産合計	2,361,732	2,199,714

[注]百万円未満四捨五入

連結損益計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期累計 自 平成27年4月 1日 至 平成27年9月30日	前第2四半期累計 自 平成26年4月 1日 至 平成26年9月30日
売上高	1,601,475	1,310,236
売上原価	1,087,212	929,651
売上総利益	514,263	380,585
販売費及び一般管理費	229,166	194,923
営業利益	285,097	185,662
営業外収益	13,260	7,363
営業外費用	13,335	17,074
経常利益	285,022	175,951
特別利益	521	1,248
特別損失	2,444	2,511
税金等調整前四半期純利益	283,099	174,688
法人税等	91,164	58,962
四半期純利益	191,935	115,726
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 1,269	2,707
親会社株主に帰属する四半期純利益	193,204	113,019

[注]百万円未満四捨五入

Point ▶ ① 資産

資産は受取手形及び売掛金が192億円、商品及び製品が351億円減少したものの、現金及び預金と短期資金運用のための有価証券を合わせた手許資金が1,817億円、有形固定資産が275億円増加したことなどにより、前期末比1,620億円の増加となりました。

Point ▶ ② 負債

負債は未払費用が127億円減少したものの、未払法人税等が151億円増加したことなどにより、前期末比2億円の増加となりました。

Point ▶ ③ 純資産

純資産は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などに伴い、利益剰余金が1,644億円増加したことなどにより、前期末比1,618億円の増加となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期累計 自 平成27年4月 1日 至 平成27年9月30日	前第2四半期累計 自 平成26年4月 1日 至 平成26年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	282,859	134,735
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 96,898	△ 63,662
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 39,542	△ 62,695
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,383	9,549
現金及び現金同等物の増減額	145,036	17,927
現金及び現金同等物の期首残高	612,085	557,870
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	△ 127	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	756,994	575,797

[注]百万円未満四捨五入

Point ▶ ④

営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払い703億円があったものの、税金等調整前四半期純利益2,831億円、売上債権の減少200億円、たな卸資産の減少351億円があったことなどから、2,829億円のキャッシュインとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

生産能力増強などに伴う投資活動があったことから、969億円のキャッシュアウトとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当の支払いや、借入金の返済などにより、395億円のキャッシュアウトとなりました。

「New SUBARU Story」をテーマに開催 第44回東京モーターショー 2015に出展

本年10月29日～11月8日、東京ビッグサイトにおいて第44回東京モーターショー2015が開催されました。今回のブーステーマは「New SUBARU Story」。安心して楽しいクルマを提供することで、お客様のアクティブな世界が広がり、人生の新たなストーリーがスタートするきっかけとなることを目指しています。劇場型ブース「SUBARU Life Theater」を取り入れ、自動運転機能などの先進安全技術を搭載した2種類のコンセプトモデルを世界で初公開させるなど、スバルならではのクルマづくりを感じていただける展示を行いました。

SUBARU CONCEPT MODEL



ワールド
プレミア

SUBARU
VIZIV
FUTURE
CONCEPT

スバル ヴィジヴ
フューチャー コンセプト
(参考出品車)

スバルブランドの提供価値である「安心と楽しさ」の未来像を具現化したSUVタイプのコンセプトモデル。アクティブに出掛けたいというデザイン・パッケージに加え、アイサイトの進化によって生まれる自動運転技術や、ダウンサイジングターボとハイブリッドシステムを組み合わせたパワーユニットの採用など、当社の次世代技術が支える「安心して楽しいドライビング」を提案します。



ワールド
プレミア

IMPREZA
5-DOOR
CONCEPT

インプレッサ
ファイドア コンセプト
(参考出品車)

スバルデザインフィロソフィ「Dynamic xSolid」のネクストステージを示唆する、インプレッサをモチーフとした5ドアスタイルのコンセプトモデル。水平対向エンジン、空力処理をはじめとする独自技術をデザインで表現し、高度な調和を目指しています。



12/1
発売

S207

世界トップレベルのレースに参戦しながら理想のクルマを追求し続けるSTI※。328psを誇る専用エンジンや大径ブレーキなど、過酷なレースの現場で培った最新のテクノロジーを投入しています。

※SUBARU TECNICA INTERNATIONAL (限定400台に達したため販売は終了)



SUBARU BRZ GT300

重心の低いBOXERエンジン+FRレイアウトによって生み出される究極のハンドリング性能を実証するため、SUBARU BRZは「SUPER GT(GT300クラス)」に参戦しています。今シーズンは第5戦鈴鹿で表彰台を獲得しました。



コンセプトは、Sportiva(スポーティな)×Vita(人生)。イタリアの老舗皮革製品サプライヤー「マリオ・レヴィ」とのコラボレーションによるレザーシートをはじめ、インテリア、エクステリアにモダンでスポーティなエッセンスを散りばめた特別なWRX S4とLEGACY B4。人生をアクティブに駆け抜ける大人のためのセダンです。

11/18
発売

WRX S4
SporVita

参考
出品車

LEGACY B4
SporVita

安心して愉しいクルマづくりを十分感じていただける車両10車種が一挙公開されました。



10/28
発売

SUBARU XV
2.0i-L EyeSight

都市型クロスオーバー「SUBARU XV」に、鮮やかなニューカラーが登場。スポーティ&カジュアルなデザインをさらに磨き上げ、アイサイト(Ver.3)とアドバンスドセーフティパッケージも採用されています。



11/2
発売

FORESTER
X-BREAK

スバルの本格SUV「フォレスタ」にアイサイト(Ver.3)とアドバンスドセーフティパッケージを採用。精悍なエクステリアと上質で機能的なインテリアで、あなたのアクティブライフを輝かせます。



12/10
発売予定

LEVORG
1.6GT EyeSight S-style

たくましく、豊かな走りをご感ぜさせる18インチアルミホイール、精悍なスタイリングを際立たせるLEDブラックベゼルヘッドライト、品質の高いパルスエードシートなどを標準装備。毎日を輝かせる特別なクオリティを1台に凝縮しました。



1/5
発売予定

LEGACY OUTBACK Limited
Smart Edition

ウルトラエード仕様のシートを採用したスマートエディションが登場。飾らないスマートな人生を楽しむ人にとって、カジュアルな内装と機能をセレクト。フラッグシップカー レガシィ アウトバックから新たな提案です。

“スバルがあると人生がもっと楽しい”
SUBARU NEXT STORY START!

スバルネクストストーリー スタート!



当社では、2015年4月1日から「スバルネクストストーリー推進室」を新設し、スバルブランドの「安心と楽しさ」をより深く浸透させ、「もっとスバルを好きになってもらう」ための活動を始めています。今回は、スバルネクストストーリー推進室小島敦室長にこの活動のコンセプトについて話をお聞きしました。

スバルネクストストーリー
推進室
小島 敦 室長

従来までスバルは、クルマとしての機能・性能を追求することとを重視した「確かなクルマづくり」を通じて、お客様との信頼関係を築いてまいりました。

そして現在は、そのクルマづくりを大事にしながら、「お客様が人生を愉しむパートナーとしてのブランドづくり」を進めています。

2014年5月に発表させていただいた中期経営ビジョン「際立つ2020」で「スバルブランドを強化する6つの取り組み」を掲げていますが、その中の「コミュニケーション」において、小さく個性的なブランドならではのお客様との密なコミュニケーション、より深いつながりをベースとした新たな提案を行う、スバルネクストストーリープロジェクトを始動させました。

「スバリスト」という言葉もあるほど、スバルは熱狂的なファンの方に支持されています。しかしお客様と販売店とのつながりに比べて、メーカーとのつながりはまだまだ小さなものです。そのため、まず一番身近な国内のお客様を対象として接点作りに取り組み始めました。

スバルはクルマを通じて#1と#2が高く評価されています。

これに加えて#3~#6をもっと強め、
ブランドエッグ全体を大きくする取り組みを実施します。



スバルのブランドエッグ

国内市場では「安心と楽しさ」を構成する6つの要素をまとめた「ブランドエッグ」によって、スバルの価値をはっきり表現し、お客様と接する全ての部門が取り組んでいます。

お客様に参加いただくイベントやアクティブライフの関連情報を集めた「ACTIVE LIFE SQUARE」もその一つで、お客様にとって付加価値のある交流の場を作り、「スバル車を選んだことで人生がより豊かになった」と感じていただくための施策を講じていきたいと考えています。



SUBARU ACTIVE LIFE SQUARE

アクティブライフスクエア

「アクティブライフ」というキーワードで、 お客様とつながる情報ポータル

スバルの公式サイト内に開設されたWEBページ。お客様とスバルを「アクティブライフ」というキーワードでつなぐ場所です。アクティブライフプログラム、アウトドアやスバルが協賛する様々なイベントやスポーツの関連情報など、お客様のアクティブライフを応援するすべてのコンテンツを集約しています。



<http://www.subaru.jp/lifeactive/>



アクティブライフスクエアアプリ

「スバルがあると嬉しい」 イベント情報を見逃さないための ツールを提供

新しいイベント情報が掲載されるとスマートフォンに通知します。アプリではイベント応募ができるほか、アウトドア情報満載の「URABUS」がお読みいただけます。



アクティブライフクエスト



お客様からさまざまなアクティビティのアイデアを募集。投稿された要望やアイデアは「アクティブライフプログラム」として実施されたり、プログラム内容に活かされています。

アクティブライフプログラム



スバルが提供するアクティビティ体験プログラム。ドライビングレッスンや全日本ラリー応援ツアー、ゴルフ、海釣り、サイクリング体験など、スバルならではの工夫を凝らした参加型イベントを実施しています。

ソーシャルネットワークでの交流

ツイッター、フェイスブック、インスタグラムのスバル公式アカウントを通じて交流しています。東京モーターショー2015では、「#SUBARU_Life」のハッシュタグをつけて投稿いただいた「ライフアクティブ」な写真で、モーターショー限定CFを制作しました。



運転支援システム「アイサイト」が 2015年度グッドデザイン金賞を受賞

～自動ブレーキをはじめとする運転支援システムとして初の受賞～



GOOD DESIGN AWARD 2015
グッドデザイン金賞

当社の運転支援システム「アイサイト」が、2015年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人 日本デザイン振興会）のグッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）を運転支援システムとして初めて受賞しました。

「世の中の交通事故をゼロにしたい」というエンジニアの強い思いから独自のアプローチで生まれたアイサイトは、ステレオカメラのみで自動車、歩行者、二輪車を検知し、車両の前方衝突の回避または衝突被害の軽減を図ることに加え、全車速追従機能付きクルーズコントロールや車線認識によるレーンキープ機能など、様々な予防安全機能を実現。

予防安全性能アセスメント*でもアイサイトを搭載するすべてのモデルで最高ランクを獲得するなど、世界トップレベルの運転支援システムとして高い評価をいただいています。受賞にあたり、主催者より以下のコメント（一部抜粋）をいただきました。「世界に先駆けて実用化された、独自開発の運転支援システムである。ステレオカメラの画像解析を行うLSIを専用設計しており、現在はver.3にまで進化を遂げている。衝突回避のみでなく、追従走行、車線維持など、来るべき自動運転のクルマ社会に必須となる先進的な機能を、いち早く実用化してきた貢献は非常に大きい。」

スバルはクルマを愉しむための安全技術として運転支援システムを磨き続けています。2020年にはアイサイトを進化させ、高速道路上での自動運転を量産車で実現することを目指しており、安心して楽しいドライビングのための運転支援システムを実現していきます。

*国土交通省と独立行政法人 自動車事故対策機構（NASVA）が実施



● スバル 運転支援システム開発年表

1989年	車載用ステレオカメラの開発開始
1999年	ADA(Active Driving Assist)を発売 ・世界で初めてステレオカメラのみで運転支援機能を実現
2008年	アイサイト発売 ・世界で初めてステレオカメラのみで自動車、二輪車、歩行者に対する衝突被害軽減ブレーキ、全車速追従クルーズコントロールをはじめとする運転支援機能を実現
2010年	アイサイト(ver.2)発売 ・自動ブレーキ機能によって自動車、二輪車、歩行者に対する衝突回避を実現
2014年	アイサイト(ver.3)発売 ・ステレオカメラシステムを刷新し、操舵制御によるレーンキープ機能を追加するなど、各種運転支援機能を強化
2017年 (予定)	アイサイト進化により、高速道路同一車線上での渋滞時追従を実現
2020年 (予定)	アイサイト進化により、高速道路上での自動運転を実現

グッドデザイン賞について

グッドデザイン賞は、物事のかたちだけでなく、その裏側に潜むプロセス、思想、意義など、様々な面を考慮し選ばれる日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度です。その中でも、「グッドデザイン金賞」は、特筆して優れたデザインとして選ばれる「グッドデザイン・ベスト100」の中からさらに審査委員会によって厳選して選ばれる賞です。

● 株主様工場ご視察会のご案内

株主様向けの工場ご視察会をご案内いたします。
矢島工場とスバルビジターセンターに加え、
本工場に併設されておりますテストコースの
ご視察をしていただく予定です。

● 日時

平成28年3月18日(金)10:00～16:00予定

● 場所

群馬製作所矢島工場およびビジターセンター

所在地:群馬県太田市庄屋町1-1

群馬製作所本工場併設テストコース

所在地:群馬県太田市スバル町1



PHOTO: スバルビジターセンターの展示コーナー



PHOTO: 矢島工場内の製造ライン



PHOTO: 群馬製作所 矢島工場

● 集合場所

電車の場合 東武伊勢崎線太田駅

お車の場合 群馬製作所矢島工場

① 当日は東武伊勢崎線太田駅より送迎バスをご用意いたします。

② お車でご越しの株主様は矢島工場へ直接おいでください。

③ 当日のご集合場所までの交通費は、株主様のご負担とさせていただきますのでご了承ください。

● 人数

100名様程度(ご同伴者様含む)

① ご希望者多数の場合は抽選とさせていただきますのでご了承ください。

② 当選落選に関しましては株主様ご本人に直接ご連絡し、当選の株主様には当日の詳細をご案内いたします。
(平成28年1月15日頃の発送を予定しております。)

● 対象者

平成27年9月30日現在、当社株式を100株以上ご所有の株主様(ご同伴者様1名まで可)

※ご同伴者様は小学生以上とさせていただきます。

【ご注意】ご視察コースは階段等を含め、約1時間の歩行となります。

● ご応募方法

下記の当社ホームページまたはハガキでご応募ください。

http://www.fhi.co.jp/ir/share_info/tour_application.html

締め切り

ホームページ：平成28年1月6日24時まで

ハガキ：平成28年1月6日 当日消印有効

株主様

- ① 郵便番号
- ② ご住所
- ③ お名前
- ④ 年齢
- ⑤ 交通手段(電車・車・その他)
- ⑥ 電話番号
- ⑦ 携帯番号

ご同伴者様

- ① ご住所
- ② お名前
- ③ 年齢
- ④ 株主様とのご関係

郵便はがき

1 5 0 - 8 5 5 4

東京都渋谷区恵比寿1-20-8

富士重工業株式会社 総務部

「株主様工場ご視察会」係

● 個人情報の取扱いについて

今回ご応募いただきました株主様およびご同伴者様の個人情報は
本ご視察会の実施以外の目的では一切使用いたしません。

【お問い合わせ先】

富士重工業株式会社 総務部「株主様工場ご視察会」係
TEL.03-6447-8825

配当に関する事項

平成27年11月5日開催の取締役会において、当社定款第47条に基づき、平成27年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主または登録株式質権者に対し、以下のとおり中間配当の実施を決定しました。

1. 中間配当金 1株につき 72円
2. 支払請求権の効力発生日および支払開始日 平成27年12月4日

株式事項 (平成27年9月30日現在)

●株式の総数

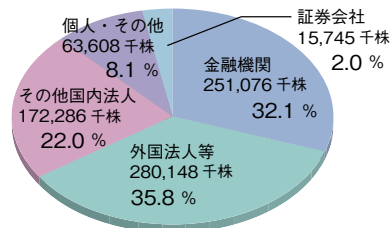
発行可能株式総数 1,500,000,000株

発行済株式の総数 782,865,873株

[注] 当中期の増加 0株

●株主数 66,689名

●株主の分布状況 合計782,865千株



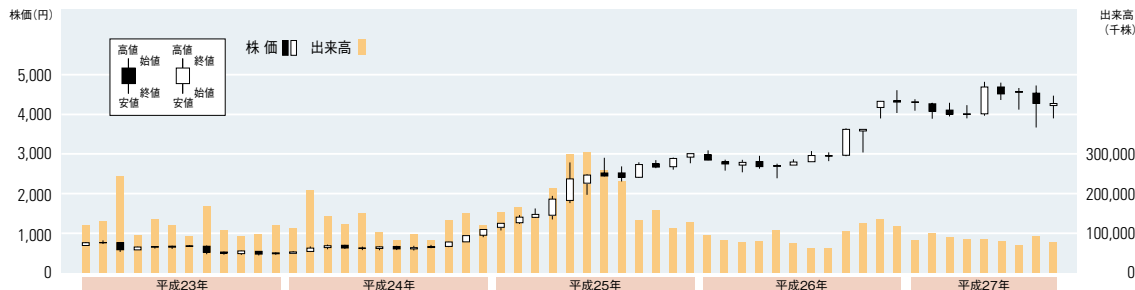
[注1]「個人・その他」には、当社所有の自己株式2,085千株が含まれております。

[注2]「その他国内法人」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式11千株が含まれております。

●大株主

株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	129,000	16.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	47,678	6.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	36,943	4.72
株式会社みずほ銀行	16,078	2.05
スズキ株式会社	13,690	1.75
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	12,157	1.55
富士重工業取引先持株会	10,586	1.35
東京海上日動火災保険株式会社	10,295	1.32
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	9,989	1.28
MIZUHO SECURITIES ASIA LIMITED-CLIENT A/C 69250601	9,902	1.26

●株価の推移



社 名 富士重工業株式会社
 英 文 社 名 Fuji Heavy Industries Ltd.
 創 立 1953年(昭和28年)7月15日
 資 本 金 153,795百万円
 従 業 員 数 14,335名(連結会社合計30,685名)
 主 要 製 品 普通・小型自動車、航空機、汎用エンジン
 本 社 〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号
 代 表 電 話 03-6447-8000

役員 (平成27年9月30日現在)

代表取締役社長	吉 永 泰 之	執行役員	高 橋 正 士
代表取締役副社長	近 藤 潤	執行役員	飯 田 政 巳
取締役専務執行役員	武 藤 直 人	執行役員	堤 ひろみ
取締役専務執行役員	高 橋 充	執行役員	戸 塚 正 一 郎
取締役専務執行役員	日 月 丈 志	執行役員	為 谷 利 明
取締役専務執行役員	笠 井 雅 博	執行役員	栗 原 宏 樹
☆ 取 締 役	有 馬 利 男	執行役員	大 抜 哲 雄
☆ 取 締 役	駒 村 義 範	執行役員	加 藤 洋 一
専 務 執 行 役 員	灰 本 周 三	執行役員	内 田 雅 之
専 務 執 行 役 員	永 野 尚	執行役員	臺 卓 治
専 務 執 行 役 員	村 上 晃 彦	執行役員	早 田 文 昭
常 務 執 行 役 員	小 坂 井 康 雄		
常 務 執 行 役 員	中 村 知 美	常 勤 監 査 役	馬 淵 晃
常 務 執 行 役 員	細 谷 和 男	☆ 常 勤 監 査 役	今 井 伸 茂
常 務 執 行 役 員	大 河 原 正 喜	☆ 監 査 役	山 本 高 稔
常 務 執 行 役 員	野 飼 康 伸	☆ 監 査 役	三 田 慎 一
常 務 執 行 役 員	前 田 聡		
常 務 執 行 役 員	岡 田 稔 明		

[注] ☆印は会社法に定める社外取締役および社外監査役であります。

株式手続きのご案内

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
配当基準日 期末配当:3月31日、中間配当:9月30日
定時株主総会 6月中
単元株式数 100株
株主名簿管理人及び
特別口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法 電子公告
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告
を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行
います)

株式に関する各種お手続き(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式に関する買取請求書及び買増請求書等)に関するお問い合わせ、書類のご請求の窓口につきましては、以下のとおりです。

証券会社に口座をお持ちの場合

お取引の証券会社になります。
なお、未払配当金の支払、支払明細発行については、下記のお取扱店・電話
お問い合わせ先・郵送物送付先をご利用ください。

証券会社に口座をお持ちでない場合（特別口座）

お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店
電話お問い合わせ先 0120-288-324(フリーダイヤル)
郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4

なお、未払配当金のお支払につきましては、みずほ銀行本店及び全国各支店
でもお取り扱いいたします。

表紙PHOTO:FORESTER 2.0i-L EyeSight ヴェネチアンレッドパール



PHOTO:SUBARU XV 2.0i-L EyeSight ハイパーブルー

富士重工業株式会社

〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号

電話 03-6447-8000

[ホームページ:株主・投資家の皆様へ] <http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>

